

韓国

製造業の生産低迷

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

研究員 大嶋 秀雄

E-mail: oshima.hideo@jri.co.jp

2015年1～3月期実質GDPは前期比 +0.8%

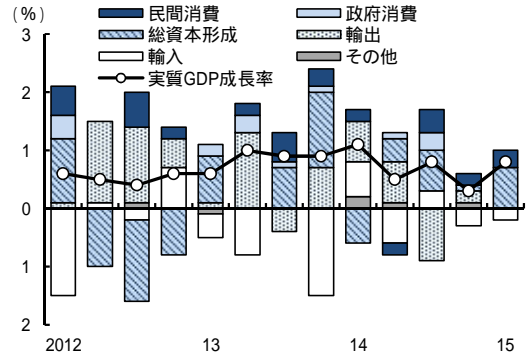
1～3月の実質 GDP は前期比 +0.8% (以下同じ)となり、前期 (+0.3%) から持ち直したものの、引き続き +1.0% を下回る伸びにとどまった。

需要項目別の寄与度をみると、民間消費が +0.3%ポイント、政府消費が +0.0%ポイント、総資本形成が +0.7%ポイント、純輸出が -0.2%ポイントであった (右上図)。消費、純輸出とも低迷するなか、総資本形成が成長を下支えた。

総資本形成の内訳をみると、設備投資が +0.0%であったのに対し、建設投資が +7.5%と大きく伸びた。しかし、建設投資の伸びは前期 (7.8%) の反動であり、前年比ではほぼ横ばい (+0.5%) である。前期の減少は収支減による公共投資の執行遅れが原因で、1～3月期の持ち直しは公共投資の再開によるものと考えられ、建設投資が本格的に回復しているとはいいがたい。

ただし、韓国銀行の利下げや政府の不動産市場活性化策などを受けて、不動産市況は改善し始めている。3月には追加利下げが行われており、不動産市況の更なる改善で建設投資の回復が期待される。一方、これらの政策で家計債務が急増しており、今後、返済・利払いの増加が消費を押し下げる懸念もある。

< 実質GDP成長率 (前期比) と需要項目別寄与度 >



前年割れが続く輸出、製造業生産

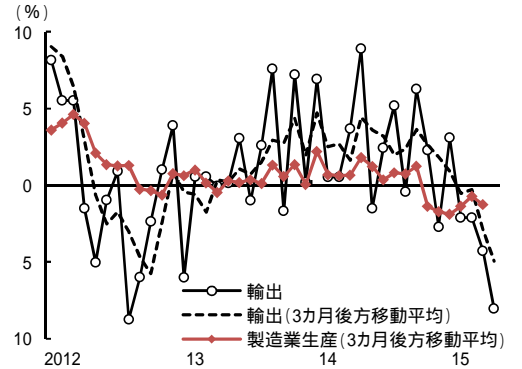
3月の輸出 (通関ベース) は、前年同月比 (以下同じ) 8.1%と大きく落ち込んだ (右下図)。

品目別では、半導体が +7.5%と好調な一方で、石油製品 (43.3%)、自動車 (8.0%)、船舶 (7.9%)、鉄鋼 (5.2%)、無線通信機器 (5.2%) など幅広い製品で前年割れとなった。地域別では、中国が 5.2%、米国が 2.7%、EU が 11.9%、日本が 12.6% と総じて落ち込んだ。

背景としては、原油価格の低下、世界経済の成長鈍化、韓国企業の海外生産シフト、対円・対ユーロでのウォン高などが指摘されている (自動車は好調だった前年の反動がある)。

また、輸出の減速を受けて製造業生産も伸び悩んでいる。3月の製造業生産指数は 0.4%となった。産業別では、半導体が +16.6%と好調な一方、通信機器 (31.9%)、電子部品 (12.1%) などが落ち込んだ。通信機器や電子部品などでの中国企業の台頭の影響も大きいと考えられる。景気回復の遅れを受けて、追加景気対策を求める声が高まっている。しかし、不正資金疑惑による国務総理 (首相に相当) 辞任などにより朴政権の政治基盤が大きく揺らいでおり、今後、韓国経済の回復に寄与する政策を着実に実行していけるか否かが注目される。

< 輸出と製造業生産 (前年同月比) >



当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。